いくがんさん

ホームページ

第 119 号令和 3 年秋号
伊豆市　法住寺 発行

お寺のホームページを維持管理している会社からセキュリティの問題があるとの連絡があった。外部からウイルスが入り込み悪さをする恐れがあると云うのだ。相手かまわず侵入すると云う。セキュリティ対策を向上させると良いと云うのだが、経費は6割増しに…。

このホームページは自分で自由に編集ができて使い勝手が良いので十数年来使ってきた。当初はパソコンを想定していたが携帯の時代になり携帯でも見やすくできるように直しもした。振り返ってみればこのホームページには大変お世話になったが、高級車に乗っていたようなものだったかもしれない、軽トラで良いのだ。

＊

ホームページにはブログを載せ、日々のお寺の様子や境内周辺に咲く野の花、昌子寺庭の活け花などの写真を載せてきた。多くの方々から「ブログ、見てますよ」、「野の花、心が落ち着きます」等と励まされ、「住職のブログ、おもしろい」など言われるとニヤニヤニコニコ…、楽しく書かせてもらってきた。今までどれだけのブログを書いてきたのかホームページを見てみると、1200 回を超えて書いる。このホームページは記憶容量が大きいので 11 年前の最初の頁から全て見返すことができる。2010 年にブログが始まる、意義ある年に間に合わせての開設であった。

2010 年(平成 22 年)は伊豆法難七五〇、日蓮大聖人が伊東川奈に配流されてから 750 年の年だった。大聖人は川奈から韮山江川家まで出向いていると伝わるので平安期から続く当山に立ち寄られたかも知れない。何より大聖人が伊豆の法難をはじめ大変な苦難を乗り越えお題目を伝えて下さったからこそ、今私たちはお題目をお唱えすることができる。何とも有難いことか。この報恩感謝を込めて寿量の塔を開眼し永代供養も出来るようにした。そして広く社会の皆さんに知ってもらおうとホームページを立ち上げたのだった。

そんな想いが昨日のことのように思い出される。この塔の場所を造るのに護持会役員さん方には大変お世話になった。山の大木を伐採、急斜面を孟宗竹で土留め、モミジやサルスベリ等の植栽、役員さんや檀家さん方と沢山の汗を流してきた。そうした善意の汗と想い

2009 年、大京道路が出来て以来の雑木を処理、その後何回も手入れしてきました

現在の寿量の杜　石積、進入路、植栽
檀家さんのお力で　よくなりました

「寿量の祈り　敬意と感謝」

大自然　ありがとうございます。　合掌
社会の皆さん　ありがとうございます。　合掌
ご先祖さま、家族の皆さん
ありがとうございます。　合掌

を積み重ねてきた場所だから、この塔の前に立つと何とも清々しい。

＊

ホームページは若い副住職にまかせることにした。ブログには何気ない日々の事を書かせてもらったり、境内の野の花など発信したりしてきたが、皆さんには心から感謝しています。ありがとうございました。

お寺の庭に花いっぱい

昌子寺庭の山務日誌より

お題目で育む自分

秋晴れの澄み切った朝、行脚隊が本堂正面に並びお題目をお唱えし出発した。最後に石段を登りきって本堂前に並びお題目をあげる方々を拝した。何かが違う！出かける前と。そこに流れる空気が違うのだ。背筋をまっすぐに、一心にお題目を唱える方々の姿は地湧の菩薩さまのようだ。後にその中の数人の方より「あの行脚の時、田圃の道を歩きながら一瞬無になれた。同時に皆さんと一体になれた。すごくいい時間でした」等の話を聞き及んだ。今年は昨年よりも家の前に出て来て下さる方が多かったとも聞き及び、

本堂前に到着の行脚隊

題目旗とコロナ終息祈願旗を掲げて田の中の道を行脚する姿が目に浮かんだ。

＊

お題目を一心にお唱えする。私の場合少しだけ心が広がるような気がする。たとえば何か起こると自分にひきよせて悪い面ばかりを見てしまうことがある。そういう時は自分中心に物事をみている。そこでくり返しお題目を唱える。先ずはそこからちょっと離れてみよう。そして仏さまの〝ふかん〟した様な気持ちになって眺めてみる。すると私もまだまだ未熟だと気付くこともある。またもの事の見方も変わることもある。日々反省もしながら、だが少しずつ前へ進みたいと思う。お題目がまだまだの私を育ててくれることを願いつつ。

お会式　行脚

今年のお会式も「コロナ終息祈念」して白龍会(小塚順一会長)の行脚がありました。

10月24日(日)8時30分から元村公民館を出発、二十数人が参加し元村、小川、西、清水とそれぞれの村中を行脚しお寺の山門を通っての行脚でした。

太鼓が聞こえてきて、多くの方々が沿道に出てくれ手を合わせ、また励ましてくれました。纏(まとい)やシャギリは控えましたが、人が集まるって良いもんだなぁと改めて感じました。殊に山門を入り本堂前の石段を一段一段と登ってくる様は、地から湧き出でる菩薩さま、お経の中にあるシーンの様でした。

午後2時からは日蓮大聖人御入滅七四〇年のお会式を厳修致しました。コロナ感染予防のため護持会役員

山門から石段を登って本堂前へ

今年のお会式法要

さん、十二日講の皆さんに参加して頂きましたが、来年はぜひ皆さまとお勤めしたいものです。

法要後は護持会総会を伊東修会長はじめ総代、世話人、監査、顧問で行いました。護持会事業・会計、志納金会計、霊園会計、特別会計が報告承認されました。総会資料は檀家さんにはお配り致しますのでご覧ください。

佐渡のすごい方

お祖師さまの佐渡法難から七五〇年、来年は宗務所主催の佐渡団参が予定されており、その下見に洋明さんが行ってきました。

佐渡には阿仏房(あぶっぼう)というすごい方がいました。もともと阿仏房は熱心な念仏者で、日蓮聖人が佐渡の塚原に配所されたと聞き、論破してやろうという気持ちで塚原三昧堂を訪ねます。論破どころか聖人の教えの正しさ、人格、情熱に感化され夫婦で帰依し熱心な信者となったのです。配所の人々の聖人に対する目は厳しいものがあって、阿仏房夫妻は夜中に櫃(ひつ)を背負って食べ物等をご供養し続けました。一里(4キロ)の道のりです、厳寒の雪の中でも通い続けたのです。

二年半後、聖人は赦免され鎌倉に戻り、その後身延山に移られます。身延山に入山されたと聞くや阿仏房はぜひ聖人にお会いしたいと死装束で佐渡を出発されたと伝わります。もう歳は八十を越えている、鎌倉時代の八十歳過ぎです、佐渡の荒海を乗り越え歩いて身延まで…。それも三度までも訪ねて三度目の時は九十歳を超えており、佐渡へ帰った翌年の三月に亡くなります。そのご遺骨は息子の守綱が首にかけ身延山へ、日蓮聖人は懇ろにご回向して庵の側に埋骨したのです。現在も身延山西谷の聖人の御廟所の左脇に阿仏房の墓所があり、お慕いした日蓮聖人のお側でとこしえにやすらいでおられます。

私は佐渡と云うと阿仏房を想うのです、あの澄み切った情熱と精神が法華経、日蓮聖人を十分に語っていると思うからです。

サムタイムズ

護持会総会

お盆のお施餓鬼

位牌堂 四十のご霊膳 正月、お彼岸、お盆にお供えしています

晩夏のタカサゴユリ

秋のサラシナショウマ

＊

『末法に入りて法華経を持つ男女のすがたより外には宝塔なきなり。もし然れば貴賤上下をえらばず、南無妙法蓮華経ととなうるものは、我身宝塔にして、我身又多宝如来也。…阿仏房の一身は宝塔なり…宝塔また阿仏房なり（阿仏房御書）』　南無妙法蓮華経

洋明さんのおはなし

昨年の十月二十八日は日蓮聖人が佐渡へ流され七五〇年の節目の日でした。コロナ禍の為、昨年叶わなかった佐渡へのお詣り。今年のその日、聖人が佐渡に配流された聖日にようやく願が叶いお詣りをすることが出来ました。ジェットホイルという高速船で新潟から佐渡まで。七五〇年前の日蓮聖人の時代は日本海の荒波のなか命懸けの渡航であったことだろう、どれだけ大変だったことかと思うも、今ではほんとあっという間の一時間。

＊

佐渡には日蓮聖人の足跡と情熱が本当に多く残っている。その中で最初に籠った塚原三昧堂のある根元寺、佐渡始顕の御本尊を書かれた妙照寺。佐渡の念仏信者ではじめは日蓮聖人を懲らしめようとしていたのに日蓮聖人の情熱、人柄と法華経に触れ生涯ご給仕された阿仏房の妙宣寺といったメジャー処はもちろん。今回は、日蓮聖人が御本尊を顕す際に水を汲まれた御井戸庵（五百日の荒行成満の際に御本尊を書く時、今でもこの井戸水で墨をすります）。到着の地の法華岩や、赦免され佐渡を離れる地の日蓮堂まであまり知られていない聖地巡業をすることが出来ました。

各寺で御開帳を受けまず気付いたことは、佐渡のお寺の日蓮聖人は、身延山や池上本門寺や自坊の法住寺のお顔とあきらかに違う。まるで命を奪われてしまうのではないかと思える程の鬼気迫る迫力の御尊顔なのです。普通の家は四面が壁に囲まれ、屋根天井もしっかりしています。しかし冬の佐渡で日蓮聖人の過ごされた御堂は壁が三面しかなく上から家の中に雪が積もってくる御堂。蓑（みの）を着て心を燃やしながら命懸けのお題目が「南無妙法蓮華経、南無妙法蓮華経」と今にも聞こえてきそうな御尊顔なのです。そして「人生はいろいろなことがあるが一つ一つ丁寧に乗り越えて生きなさい。大丈夫。」と時空を超えて言って頂いた様な気がしました。厳しい表情の中にも温かさ、情熱、力強さそして勇気を頂けたように感じました。

＊

さて、私たちは頭では理解していてもそれは分っているつもりだけで、極限に追い込まれてこそ本当に気が付くことあるのだと思います。本当は追い込まれなくても気付けるといいのですがなかなか難しいですね。日蓮聖人も佐渡での極限の中でこそ分かられたこともあったのでしょう。法華経、お題目を広める使命、その目的の為に今を生きる。佐渡の法難があったからこそ、その後の日蓮聖人の情熱とエネルギーが増したとも云われています。

もちろん日蓮聖人と同じ様にとは畏れ多いですが、私達も目的が見つかったらそれに向かって生きてみる。何となくではなく、はっきりと生きる。それが出来る様、日々精進したいものです。

御志納金［七月～十月］

住職		
清水	瓜島 日洋 殿	電話設置砌
清水	林 道弘 殿	尊母葬儀砌
清水	森野 成美 殿	夫君葬儀砌
八幡	伊東 康行 殿	尊父葬儀謝
清水	森野 隆史 殿	退院感謝